



大阪出入国在留管理局出前講座

「目指すべき外国人との共生社会とその実現に向けた取組について」

1月15日、国際理解教育講座として大阪出入国在留管理局審査官3名を講師にお招きし、「目指すべき外国人との共生社会とその実現に向けた取組について」と題し、出前講座を開催しました。本講座は、外国人との共生に係る啓発を、我が国社会全体の運動として日本全国に運動を展開することを目的としています。当日は希望する高校生20人に加えて、附属中学生4人も参加。出入国管理局の仕事について、クイズを交えつつわかりやすく説明していただきました。在留外国人は、中国、ベトナム、韓国と年々増加傾向にあり、在留外国人アンケートによると、56.4%が何かしらの孤独を感じているということでした。最後に、外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」について教わりました。「集合する」は「集まる」、「土足厳禁」は「靴を脱いでください」などやさしい言葉への言い換えを示しながら、「短く」「はっきりと」「ゆっくりと」「簡単に」をポイントに、外国人にとって理解し易い日本語を伝授していただきました。



【今回の講演を受けて学んだことや発見したこと ～振り返りシートより～】

入管という仕事は今まで聞いたことがなかったけれど、外国人が安心して日本で住めるように手助けをする大事な仕事なのだと知った。日本の在留外国人が増加してきているのは知っていたけれど、孤独を感じている人が半分以上もいることに驚いた。日本人は外国人との会話が成り立つのかを意識しすぎているように思う。外国人の8割程度は簡単な日本語なら会話ができると聞いて、今日習った「やさしい日本語」が外国人との会話において大事な道具になると思う。「やさしい日本語」などの習ったことを活かしてこれから生活していきたいと思う。 1年1組 平井 愛里花

昔雑学で、「優しい人は簡単な言葉で話す」というのを聞いたことがあった。相手が理解しやすいように伝えることは思いやりであり、外国人に限った話ではないと思った。日本語特有の曖昧な言い回しが、外国人には伝わらないことがある。文化の違いがあるけれど、お互いの文化を受け入れて、共生社会が成立するのだと感じた。「ストレートすぎてつらい」や「何が言いたいかわからない」とストレスを感じるかもしれないが、「そういう文化なんだ」と認めて理解できるようにつとめる。それが人種を越えた人間関係、ひいては世界平和につながるのだと思う。 1年6組 斎藤 ほか

入管の仕事の内容が分かりました。これまで名前も聞いたことがなかったけれど、今回の講義で興味を持てたし、視野が広がりました。外国の人とのコミュニケーションでは、英語の勉強に力を入れたが、やさしい日本語で伝えたいことが伝えられるようになることも大切だと思いました。 2年5組 榎本 伊織